

情報通信審議会 情報通信政策部会
IoT新時代の未来づくり検討委員会
第2回 高齢者SWG 資料

シニア情報生活アドバイザー制度と シニアネット(養成講座実施団体)について

2017年12月21日(木)

一般財団法人ニューメディア開発協会
松下晴男 h.matsushita@nmda.or.jp

シニア情報生活アドバイザー制度とは ～シニアがシニアを教える地域のICTリーダー・先生を養成～

シニア情報生活アドバイザー制度とは「シニア情報生活アドバイザー」を養成し、多くのシニアの方々にICTの楽しさ、便利さ等を広め、シニアの活性化・地域の活性化を促進することを目的に設立した当協会独自の資格付与制度です。

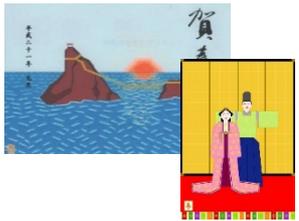


技術力
パソコンやスマホ及びOS、ネットワーク等のICTに関する基本的な知識と技能

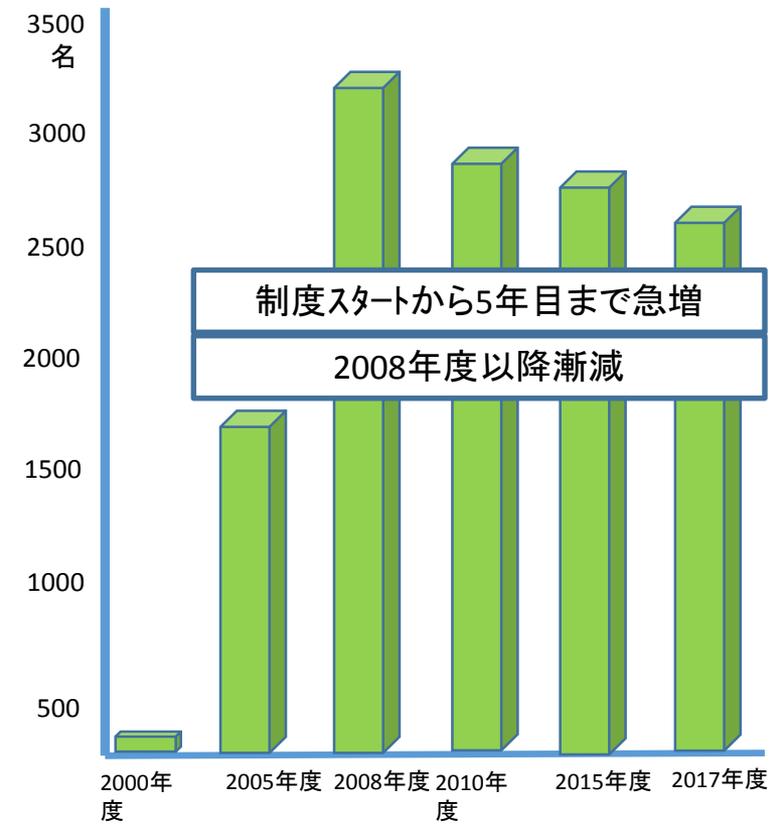
ICT利活用能力
趣味や個人の関心事に対してアプリケーションを活用して**楽しいICT生活**を提案できる能力



学習支援能力
講師としてシニアの方に教える又はアドバイスのための基本的な知識と技能



シニア情報生活アドバイザー
全国:2,700名(登録者数)
平均年齢:67歳~68歳
男女比:男性7割・女3割



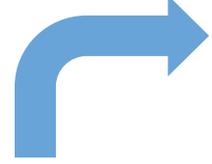
制度の仕組



主要認定養成講座
 団体数 98団体
 (シニアネットワーク)
 * 登録団体数160

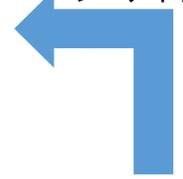
③
 * うるま市では(公)シルバー人材センターが実施

アドバイザーの養成
 及び活動支援



アドバイザー

アドバイザーへの情報提供・交
 流支援(HP(HP・メルマガ・
 シニアネットフォーラム他)



養成講座実施団体
 (シニアが中心のNPO他)



養成講座実施の支援
 試験官派遣



アドバイザー事務局
 (ニューメディア開発協会)

- ①養成講座及び試験の実施
- ②受講料、教材費、登録料徴収
- ③**アドバイザーの方の活動機会の
 開拓と活動支援(地域)**

- ①アドバイザーの登録と管理
- ②養成講座用カリキュラム・教材の作成
- ③**アドバイザーの方の活動機会の開拓(全国)**
- ④アドバイザー間の交流支援
- ⑤制度の広報活動

シニア情報生活アドバイザーの方々及び各団体の活動例①

高齢者認知症予防のためのタブレット教室事業

(NPO法人 シニアSOHO世田谷 様)

本事業では、まず①タブレット講師に認知症予防ファシリテーター研修を行い、同研修を履修した講師が②高齢者に地域認知症予防プログラムに則り、iPadを使い方をやさしく教える講習会を行いました。講習会は、延べ77回実施し、208名の方に参加いただきました。(WAM社会福祉振興助成事業)

- (参加者の声) 第1位は、「役立つ情報が、得られる」
- ・色々、使えそうで購入すれば、ポケ防止の生活ができそう
 - ・まだ入門ですが、使用方法を覚え、世界が広がると思うと楽しみ
 - ・まったく新しい分野で頭の体操にもってこいです。
 - ・毎日の生活に変化が出てくるかもしれません。
 - ・若い人たちと交流ができた、楽しいなと思いました(息子、孫)友達ができた。
 - ・パソコンより便利だと感じた。
 - ・Siriですると楽だと分かった。

参加者で最も多かったのは70代の女性、ついで60代の女性三番目にやっと70代の男性。80代になると極端に減少(最高齢は98歳の方)



携帯電話、スマートフォン講座・地域団体向けICT支援事業他

(NPO法人 まちづくりねっと・うじ 様)

・携帯電話、スマート講座

宇治市福祉サービス公社や宇治市社会福祉協議会などからの委託を受け、携帯電話講座、スマートフォン講座、FaceBook講座などを随時実施しています。「やさしく、楽しく、簡単に」を心がけ受講していただくとともに職員の皆様のスキルアップにも役立てていただいています。又、東宇治コミュニティセンター主催パソコンよろず相談会にスタッフを毎回約10名派遣しています。午前10時から午後3時まで何時にきても対応できるようスタッフが待機しています。相談は、無料。利用者の皆さんは毎回相談会を心待ちにしています。

・団体向けICT支援事業

地域で関わりのある各種団体には、多数のパソコンやネットワーク機器があるにも関わらず、必ずしもICTにたけた選任職員がいるわけではなく、操作や障害時の対応に困っているところが多数あります。そのような団体とICT支援委託契約を結びICT機器の設備台帳を作成し、各種サポートを行っています。



・認知症講座のインターネットライブ中継の技術支援

自治体関連団体との協働～佐賀県～

(シニア情報生活アドバイザー佐賀 様)

佐賀県の「情報化団体づくり支援事業」

支援事業を使って講習会を開催時にアドバイザー3名派遣、謝金、旅費、会場費、チラシ印刷費等を県が負担。(年に3～5回)

佐賀県まなび課

市町や公民館へのICT推進の為の講習会開催への提言・広報の協力をして頂きました

佐賀県高度情報化推進協議会

ICT情報化セミナーの講師・サポーターの依頼に協力しました。事業計画に対し事業運営の資金の助成を頂きました。

佐賀県長寿社会振興財団

「ゆめ佐賀大学」関係の講習会、研修会等で協力頂きました。

佐賀市教育委員会

市町や公民館へのICT推進の為の講習会開催への提言・広報の協力をして頂きました。佐賀県神埼市千代田町



障がいのある方々への支援

(パソボラネット西條 様)

障がい者の方を対象に訪問支援実施



・視覚に障がいのある方の支援

視覚に障がいのある方にとってデージー図書(Digital Accessible Information System)は、大切な読書的手段です。以前は、デージー図書のCDを郵送してもらっていましたが、しかし、パソボラネット西条の支援で、デージー図書のダウンロード、CDへの焼き付けが自力できるようになりました。

・上肢に障がいのある方の支援

らくらくマウスとキーガードを使って、パソコンを楽しんでいます。パソコンが堪能で、1度聞いたことをすぐ理解し覚える方です。ペイントを使って、2か月もかけて、素晴らしい作品を作り、それを年賀状にしたり、印刷して額に入れてたりしています。



シニア情報生活アドバイザーの方々及び各団体の活動例②

過疎地でのタブレット利用促進～長野県平谷村～ (NPO法人 信州ソフトウェア協会様)

総務省 過疎地域等自立活性化推進事業を活用したタブレットによる生活機能確保する事業の展開

買物支援

JA平谷店が閉店してから生鮮食品などを小売りする店舗が村からなくなったため、ネット市場を開発し、利用者にはタブレットを貸出し、ネットで注文が行えるようにした。(運営主体:ICT推進協議会)



買物難民対策として
ネット市場を運営

タブレット講習会

タブレットを村民が、利用できるように指導者向けと一般住民向けに分けて講習会を開催。講習会にあたっては、ビデオ教材も作成し、DVDをつ希望者に配布

パソコン教室からコミュニティビジネスへの展開 (NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹様)

「シニアベンチャー支援事業」の助成金を活用したパソコン教室からスタートし、リタイヤシニアの知恵、技術、人脈、経験を生かして様々なコミュニティビジネスを展開



(現在運営中の事業)

- ・講座事業(シニアによるシニアのためのパソコン講座)
- ・学校事業(三鷹市内の全小中学校のHP作成を支援)
- ・三鷹市ヘルプデスク(職員からのICTに関するQ&A)
- ・セルフキャリアドック活用支援
- ・認知症地域支援フォーラムの運営
- ・みたかなビ(観光)を運営。写真・取材はすべてシニア
- ・小中学校校庭緑化事業
- ・高齢者社会活動マッチング推進事業
- ・個人向けタブレット・サポート事業

街づくり・地元産業への貢献～埼玉県北葛飾郡～ (NPO法人 すぎとSOHOクラブ 様)

地元企業、団体のWebサイト構築の支援

- 埼玉県農林部/埼玉農産物ブログ「SAITAMAわっしょい！」
- 杉戸町福祉協議会
- 杉戸町観光協会
- がん患者会「シャローム」様(ブログ指導) ……



街づくり事業

- ・宮代町市民活動スペース運営事業(宮代町協働事業)
- ・くすのきエコDAY事業(まちづくり支援金)
- ・子育てハッピーキャンペーン(埼玉県福祉部)
- ・里山再生「FURUYA村」(自主事業)
- ・イトナンボの郷づくり(自主事業)

学習支援

シニアITいきが大学開催、すぎとITボランティアの会支援

復興ボランティア・支援活動 (シニアネット東日本大震災復興支援委員会)

複数の団体の方が発起人となり委員会を設置し、シニアネットとアドバイザーの方へ復興に向けた支援活動の輪を広げようとボランティアを募集し、様々な活動を行いました。

- ・福島県飯館村「仮設住宅でのパソコン教室」(福島シニアネット)
- ・陸前高田市での「タブレット講座」開催 (シニアネットアス高田)
- ・石巻市でのガレキの撤去作業 10万Kg (シニアネット今治)
- ・募金活動としてPCで作成した絵葉書を販売 (シニアSOHO横浜・神奈川)
- ・福島県福島市の福島市北幹線第一仮設住宅での「初めてのパソコン教室」を開催(福島シニアネット・仙台シニアネット)
- ・藤沢市のシニア団体が船渡の団体へPCを寄付 (湘南藤沢シニアネット)
- ・福島県川俣町スカイプ無料講座～離れているご家族と大切な人と無料ビデオでつながる～を開催



福島市北幹線第一仮設住宅



中古品を再生して寄付

活動例③ ～「マイナンバーカード説明及び即時カード申請会」へのご支援～



1. 概要 マイナンバーカードの利便性・安全性を説明(30分)後、希望者はその場で持参のスマホ又は事前に準備したパソコンを利用してカード発行申請を行う
2. 実施日 2017年10月17日(火)～19日(水) @愛知県犬山市
3. 主催 内閣府、共催:犬山市役所
4. 支援団体 **NPO いぬやまe-コミュニティネットワーク様**
5. 支援内容 ①申請方法に基づくスマホ及びパソコンの操作支援 ②会場および機材の貸し出し
6. 実績 参加者110名・申請者70名(参加者の呼びかけは、団体会員へのメール他)

①カードに関する説明(内閣府)



②申請希望者の募集



③申請時のスマホ・パソコンサポート



シニア×ICTをキーワードに様々なシーンで広がる活動

活動領域	地域	団体名	活動内容
産業振興	神奈川県横浜市	NPOシニアSOHO横浜・神奈川	横浜市商店街IT支援・マイナンバー制度広報を支援
就労支援	沖縄県 沖縄市	NPO沖縄ハイサイネット	中高年の就活に役立つパソコン講座・インターネット安全教室他を開催
健康	千葉県我孫子市	NPOあびこ・シニア・ライフ・ネット	認知症予防対策タブレット講座・生涯学習出前講座・のびのび親子学級他を開催
ICT教育	東京都新宿区	NPO自立化支援ネットワーク	シニアのためのスマートフォン講座・パソコンセキュリティ講座・心の悩みの進路相談他を開催
ICT教育	愛知県犬山市	NPOいぬやまeコミュニティネットワーク	子供向けプログラミング教室・愛知県障害者委託訓練・不登校児童生徒のためのキャリア教育他を開催
就労支援	大阪府大阪市	NPOおおさかシニアネット	求職者支援訓練(ビジネスパソコン講習)を実施
ICT教育	山口県光市	NPOシニアネット光	iPad活用小中学校授業支援・市民対象「ICT駆け込み寺」相談対応を実施
NPO支援	秋田県秋田市	NPO ITサポートあきた	パソコン講座を開催したいNPO団体に講師の派遣やアドバイザー資格を取るための講習を実施
ICT教育	東京都杉並区	ゆうゆうネット塾PCサロン	「地域のITリーダー」となる人材の養成を杉並区より受託し、講師を派遣
安否確認	東京都西東京市	NPOセブロス	“メル士”と呼ばれるスタッフがメールを毎日送信し、返信してもらうことで見守り・見守られのコミュニティを形成
障がい者支援	神奈川県横浜市	NPO シニアSOHO横浜・神奈川	横浜市内の中途障がい者地域活動センター(18区)にて脳血管障がいがあるため手や足が不自由な方をを対象にパソコン絵画教室を開催し、リハビリをサポート
ICT教育	滋賀県湖南市	NPO湖南ネットしが	小学生を対象に「ロボット教室」を開催。レゴブロックでロボットを作り、パソコンからのプログラムでロボットを動かして楽しむ内容。
震災ボランティア	熊本県熊本市	熊本シニアネット	震災健康カフェを開催し、それぞれの震災体験を語り、「震災ボランティア」「助けをだせるネットワークづくり」をテーマにディスカッション。(詳細を「熊本シニアネットの熊本地震」としてPDF化)
過疎対策	和歌山県田辺市	NPOつれもてネット	「過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援事業」としてタブレット端末の活用方法、近隣の人々との「つながり」を体感できる事業を実施

シニア情報生活アドバイザー養成講座について

1. 養成講座の受講資格(自己申告)

- ・概ね50歳以上であること
- ・パソコンを利用して、電子メールの送受信を日常的に行っていること
- ・日常的にパソコンを活用していること

2. 養成講座の内容と時間数(講義を8回行います。講義時間の合計は試験時間を除いて24時間/1日平均受講時間 3時間)

	講義内容
第1講義	イントロダクション
第2講義	Windowsの操作の支援とインターネット利用
第3講義	タブレットやスマートフォンの特徴や操作 (iOS,Android)
第4講義	講義案を作成しよう
第5講義	講師を体験しよう
第6講義	いろいろな活動のための基礎知識
第7講義	活用方法を考えよう
第8講義	発表



3. 試験 プレゼン・実技・筆記(全科目の合格をもって資格認定)

4. 資格の有効期限 3年(登録の更新は、有効期限最終年度に行われるスキルアップ研修の受講により実施)

【予定】スマホ・タブレットマスター養成講座について(2017年12月試行開始)

1. 講座開設の目的

シニア情報アドバイザーの方々のスマホ・タブレット分野のスキルアップの標準化を図るとともに、アドバイザーの資格をお持ちでないタブレット利用者(パソコンの知識を持たない方も含む)により利用価値を高めていただくことにも活用できる講座として設置。

2. コンセプト

「楽しく学べて、便利さが実感できる講座とする」

3. コース

「アプリケーション習得コース」と「スマホ・タブレット各種設定コース」で構成し、まずはアプリの利用から楽しく学ぶ。

4. 受講対象レベル

①すでに何らかのスマホ又はタブレットをお持ちの方で、タブレットをもっと活用したい方

②まだスマホ又はタブレットは、持っていないが「シニア情報生活アドバイザー資格」を取得しているか、又はパソコンについては堪能な方 *タブレット・スマホをお持ちでなく、パソコンにも堪能でない方については、別途「初心者コース」を設定

5. テキストについて

①「ICT利活用による高齢者の社会参画に向けた実証事業」にて作成したテキストを参考

②日常生活(時間軸・シーン・活動目的)を想定したアプリケーションを中心に解説

6. 認定

本講座受講後、試験を経て資格(スマホ・タブレットアドバイザー、スマホ・タブレットマスター)を認定し、全国へ。

シニアネットワークへの支援活動

①ホームページでの情報共有



④シニアネットワークでの事業受

高齢者の社会参画を促進するために！
ICTを使ってコミュニケーションの活性化を図る

高齢者のICTリテラシー向上が必要である → ICTリテラシーの能力の習得

地域において、ICTリテラシーを身に付けた高齢者に期待する役割とは？

ICTリテラシーの習得を通じて、地域での交流を促す。

習得の目標値
OECDの国際成人力調査 (IALS) の「多用途上級実践能力」の「習熟レベル1」程度

総務省
（財）ニューメディア開発協会

「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」に関する手引書
(総務省:ICT活用による高齢者の社会参画に向けた実証事業より)

②メールマガジンによる情報発信

(登録者数3,000名)

シニア情報生活アドバイザーマガジン (第160号—2017年11月30日)

MELLOW 発行:一般財団法人ニューメディア開発協会
 シニア情報生活アドバイザー事務局

[ピックアップ]

- 「シニアネットフォーラム21in東京2018」の開催日程が決定
- 「スマホ・タブレットマスター養成講座」について(2)

[スキルアップ講座]

- 「Facebook」活用講座—Facebookページで情報公開

--- メロウ・マスター 白倉登貴雄 ---

[参考情報・資料]

- Facebookが東京でイベントを開催(参加無料、受付中)

[ピックアップ]

- 「シニアネットフォーラム21in東京2018」の開催日程が決定

「シニアネットフォーラム21in東京2018」の開催日は、来年3月9日金曜日です。場所は2017年と同様に、東京グランドホテルです。

ぜひ、いまから予定をいれてください。

多数の方の参加をお待ちしております。

- 「スマホ・タブレットマスター養成講座」について(2)

先月号でもお知らせしましたが、当協会では来年度よりスマホ・タブレットマスター養成講座を開始する予定です。

85歳になられた方を表彰

③シニアネットフォーラムの開催



シニア情報生活アドバイザー特別表彰

講演会・実践セミナー・事例紹介

■セミナールーム1
(A)電子書籍「Kindle本」出版セミナー
NPOシニアSOHO横浜・神奈川 大熊 勇雄氏
(B)H28年度シニア情報生活アドバイザー養成講座変更点、指導要領の説明
NPO法人自立化支援ネットワーク 生部 圭助氏
(C)Windows10体験教室
日本マイクロソフト株式会社 (SurFace Pro3を使用)

■セミナールーム2
(A)スマホ、タブレットによる認知症予防講座の可能性
NPO法人シニアSOHO世田谷 山根 明氏
(B)H28年度シニア情報生活アドバイザー養成講座変更点、指導要領の説明
NPO法人自立化支援ネットワーク 生部 圭助氏
(C)Windows10体験教室
日本マイクロソフト株式会社 (SurFace Pro3を使用)
(D)NPO任意団体のマイナンバー制度対応及びその他について
(一財)ニューメディア開発協会 総務グループ長 馬場宏允
各種セミナー

次回 2018年3月8日(木) @ 都内 開催予定

課題とこれからの取組み

シニアの方々が、パソコンやインターネットを利用して楽しく、便利で、活動的な生活がおくれ、社会参画できることを目的とする。

受講者の方々のニーズや技術革新などの変化への対応

- スマホ・タブレットマスター制度のスタート
*各団体独自では講座を開設し、2016年度は約30,000名が受講
- シニア情報アドバイザー用テキストの改訂(毎年)
- 雇用の促進・就労支援を目的とした講座



- アドバイザーへの新技術及び利活用情報の提供
- 情報セキュリティ対策の充実と強化
シニアの方のeコマース利用拡大

アドバイザーの方々のご活躍の場の拡大

- 各団体を拠点する「地域ITリーダー」拡大への支援
- 受講生確保のための広報活動支援
- 最新機器に触れる機会作り
- 子供向けプログラミング学習へのアプローチ(一部団体で実施)
- アドバイザーの方々のスキルが生かせる団体との連携
例、社会福祉協議会・シルバー人材センター
- テレワーク・遠隔講義等の活用
- CIVIC TECH等の団体と連携した地域ICT化(作る→広める)




各団体の運営環境ご支援の充実

<h4>機材の充実</h4> <ul style="list-style-type: none"> ■ 自治体や企業と事業面で連携できる機会の創出 ■ 団体向け貸し出し機器の整備 ■ 企業退職者・OB会へのアドバイザー制度活用の呼びかけ ■ 各団体独自のテキスト・クラウド(検討中)によるシェア ■ 助成金情報等のタイムリーな提供 	<h4>会場の確保</h4>	<h4>収入の多様化</h4>	<h4>講師の育成</h4>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------	-----------------	----------------



未来に向けて

- シニアの方々の「新しい就労の仕方」を通じて持続可能な活力ある超高齢社会の実現を研究する「超高齢社会2.0勉強会」をスタートしました。
 - ・ジョブマッチング プラットフォーム「GBER」
 - ・世代を超えた連携
 - ・障がい者の方々の就労支援
 - ・モザイク型就労
 - ・ジェロンテクノロジー、ジェロンインフォマティクス



アドバイザー・各団体の方々の声

「シニア人口は増えています。しかし、壮年時代からパソコンに馴染んできた層の割合が大きくなる一方、私達が関与し始めた13年前頃の高齢者層は、パソコンに興味を示した方と、パソコンに馴染めない方に分類されています。パソコンに馴染めない方は意識的に「パソコンが出来れば便利である」事は判っていても、今から習おうとは殆ど思わない様になって来ました。

一概に「シニア情報生活アドバイザー」と言っても、制度の発足時とは対象の質が変化していますので、それらに対して如何に対応するかなど、時代の変化と共に検討課題は尽きません。」

「平成26年度からはNPOとしての活動になりますが、運営はまだまだ助成金頼りです。SIA佐賀は全員が「シニア情報生活アドバイザー」ですから、今後、アドバイザーの活動の場を広げることなど将来的には自力で運営が出来るような努力も必要です。」

「授業体制が主任講師1名とサポーター6名を配置し、マンツーマンの態勢で授業ができることも好評です。

塾生から、脳梗塞を患いリハビリのために習いたい、耳や目に障害がある人を受け入れる教室がなかった、また、シニアの為のパソコン教室がなく、高額な講習料、入会金、テキスト代を支払い、数か月間通ったが講義だけ、はスケジュール通りに進み授業についていく事ができなかったなどのお話を聞いた時に、開講して良かったなと感じます。」

「3年ごとの更新時では、病気や高齢のため更新しない会員もおり、会員の減少につながっているのが現状です。今後は、この減少分をカバーして、さらに増加につなげるような対策が必要であると
考えています。」

「パソコンをやりたいというシニア層は、まだまだ多くいます。地域に1名ないし2名の「街のパソコン先生」という形でアドバイザーを増やしていきたいと思っています。」

「杉並区の区政合理化から施設の統廃合が行われ、講習会場費が大幅に変わる方向が報ぜられています。現在の会費100円/月を増額する検討をしています」

「2～3歳の子供でもスマートフォンなど情報機器をいとも簡単に使っている現状ですが、IT機器に接する機会の少ない高齢者は、情報化から取り残されがちです。
高齢者が気軽に機器に触れる機会をつくり、身近な所にアドバイザーがいる環境が必要です。そのためにSIA佐賀は、地域に根付いたアドバイザーを少しでも多く養成ことを目標に活動を進めていきます」

「インターネット環境のあるパソコンを備えた会場がないため毎回10数台のパソコンを搬入しLANを組みモバイルルーターでインターネットに繋ぐという作業を行っています。ICTインフラの整備された施設を切望しています。」

「良い講座の提供は、“講座の内容”と“講座の仕方”に要約されると思います。受講者がパソコンを活用して楽しく・役に立つない内容ということを主眼に実施し、講師はできるだけ多くの中mで行って
います。実際講師をやって実感したことはその進め方です。ゆっくり・やさしく・繰り返し・楽しく教えられるような心配りが必要だと痛感しています」

「スタート時は、全くのボランティアから始まり、家賃・日常経費をクリアする毎に交通費をフルカバー、そして時給の見直し、各教室の管理業務作業手当と段階的に賄い収支を整えてきました。
立ち上げ時には受講生からの寄付も頂き、運営上非常に助かりました。受講料は最初から500円/1時間で続けております。収益の余剰金は、パソコンの修理、ソフト費用等に使用しています。」

一般財団法人
ニューメディア開発協会

ご案内

ITイノベーションで
安全・安心、快適、利便性の高い
社会を実現します

New Media Development Association

協会のあゆみ

国民生活の向上、健全な福祉社会に貢献する一財団設立の趣旨

1981年、当協会の前身である(財)映像情報システム開発協会(会長 土光敏夫)の財団設立趣旨書には、「情報通信技術(当時は、ニューメディアと表現)を活用して、国民生活の向上、健全な福祉社会の建設に貢献すると共に関連事業分野の発展、ひいては技術立国を通じ我が国の国際的地位の向上に寄与するよう努力することを固く決意するものである」と述べられています。

そして、世界に先駆けて光ファイバーを用いた双方向情報システム(HI-OVIS)の実証を行い、地域コミュニティの形成、地域福祉社会の形成、国民の情報選択の主体性の確立等の理念実現を目指しました。

1984年に(財)ニューメディア開発協会に改組し、初代会長に故松本幸之助氏が就任後も、地域情報化の先駆けである「ニューメディア・コミュニティ構想」による情報インフラの整備、インターネット・ICカード社会を見据えたシステム開発・大規模実証実験、高齢化社会における情報通信の利活用を目的とした「メロワソサエティ構想」など先進的な活動を続けてまいりました。

ニューメディア、マルチメディア、IT、IoTと情報通信に関する概念、技術は変化してまいりますが、協会の使命としては、先人の決意を不変のものとしつつ、今後は、「情報通信技術の利活用」を中心とした活動を行ってまいります。

1972年(昭和47年)	(財)映像情報システム開発協会設立
1973年(昭和48年)	(財)生活映像情報システム開発協会を設立 旧財団老人映像情報システム開発協会と旧多摩ニュータウン生活情報システム開発協会を統合して発足(財団法人設立)
1981年(昭和56年)	(財)映像情報システム開発協会設立 旧財団のうち、映像情報システム開発本部事業を継承
1984年(昭和59年)	(財)ニューメディア開発協会設立 (財)映像情報システム開発協会を改組(実証)、従来の事業にニューメディアに関する調査・研究・開発・普及啓発等の事業を加える。
1987年(昭和62年)	情報化未来都市構想推進協議会(APADIC)設立
1996年(平成8年)	財団法人パーソナル情報環境協会を合併、旧財団の実施していたメロワ・ソサエティ構想推進事業を継承
2011年(平成23年)	一般財団法人に移行

情報発信

ホームページから協会の取組や事業成果をタイムリーに情報発信しています。

The screenshot shows the homepage of the New Media Development Association (NMDA). Key features highlighted by callouts include:

- 重点とする事業のご紹介** (Introduction of key business areas): A section titled '重点事業' (Key Business) listing various projects and services.
- 協会の概要をご紹介** (Introduction of the association's overview): A section titled '協会概要' (Association Overview) providing information about the organization.
- 最近の事業のご紹介** (Introduction of recent business activities): A section titled '最新情報' (Latest Information) featuring news and updates.
- 補助金申請向けメニュー** (Menu for subsidy applications): A section titled '補助金' (Subsidies) providing information on funding opportunities.

At the bottom right, the homepage URL is provided: <http://www2.nmda.or.jp/>

青春とは
人生の一時期のことでなく、
心のあり方のことだ。
若くするためには、
創造力・強い意思・情熱・勇気が必要であり、
安易に就こうとする心を叱咤する冒険への希求がなければならぬ。

人間は
年齢を重ねた時老いるのではない。
理想をなくした時老いるのである。
歳月は人間に皮膚に皺を刻むが、
情熱の消失は心に皺を作る。
悩みや疑い・不安や恐怖・失望、
これらのものこそ 若さを消滅させ、
雲ひとつない大空のような心を
だいににしてしまう元凶であろうと。
六十歳になるとう 十六歳であるうと、
人間は、驚きへの憧憬・夜空に輝く
星座の煌めきにも似た事象や思想に対する敬愛・
何かに挑戦する心・子供のような探究心・
人生の喜びと それに対する興味を
変わらず胸に抱くことができる。
人間は信念とともに若くあり、
疑念とともに老いる。
自信とともに若くあり、
恐怖とともに老いる。
希望ある限り人間は若く、
失望とともに老いるのである。
自然や神仏や他者から、美しさや喜び、勇気や力などを、
感じ取ることができる限り、
その人は若いのだ。
感性を失い、心が皮肉に被われ、嘆きや悲しみに閉ざされる時、
人間は真に老いるのである。
そのような人は 神のあわれみを乞うかない。

サミエル・ウルマン「青春の詩」より